

ヴェルディ・オペラ第12作目「イエルサレム Jerusalem」研修会

於・・・2024年10月26日(土)京都市勧業館みやこめっせB1

お話し・・・錦職昭彦

はじめに 今回の「イエルサレム」DVD、この教材は会員大山 望氏からご提供頂いたものであります。ヴェルディのオペラ作品の中で、このオペラ DVD が一番入手困難であります。わたしも古レコード屋を通じ国内外探して貰いましたが、無い、という返事でした。誠に有難うございました。厚く御礼申し上げます。

「イエルサレム」作曲の経緯

第11作目「群盗」の初演はヴェルディ立会いのもと1847年7月22日ロンドン・女王陛下劇場 (Her Majesty's Theatre) で行われヴィクトリア女王も臨席された。

ヴェルディは初演後間なしに、ロンドンからG・ストレッポーニが住んでいるパリに行っている。丁度その時、フランスの出版業者、音楽史家レオン・エスキュディエの紹介でパリ・オペラ座の支配人が「イ・ロンバルディ」のフランス語改訂版を作らないかと持ち掛けてきた。ヴェルディは愛人G・ストレッポーニと、ちょっとでも長く一緒にパリに居たい。すぐOKをだし、改訂作業に入った。題名は「イエルサレム」と決めた。台本はアルフォンス・ロワイエとグスターヴ・ヴァエズの共作である。初演は1847年11月26日パリ・オペラ座であり、これがパリ・オペラ座との最初の出会である。

このパリ・オペラ座初演によってヴェルディの夢は膨らむ。ヴェルディはパリ滞在中フランス風グランド・オペラ、つまり当時パリで大活躍していたマイヤベーアの「鬼のロベール1831年初演」「ユグノー教徒1836初演」等を観ていて、グランド・オペラの舞台、オーケストレーションを評価し、研究を重ねてゆく。そして、ヴェルディは自作のグランド・オペラ「シチリアの晩鐘」「ドン・カルロ」「アイーダ」を作曲、大成功するのである。

ジュゼッピーナ・ストレッポーニ (Giuseppina Strepponi 1815～1897)
ローディ(Lodi ミラノの南東約30 km)に生まれる

作曲家の父親を持ち音楽の手ほどきを受けるが17歳の時父親が死亡、一家は極端な経済的窮乏に陥る。しかし、彼女は奨学金を取得、無事ミラノの音楽院を卒業した。1834年プロデビューし、母親、兄弟姉妹を扶養した。キャリアはとんとん拍子に飛躍、ドニゼッティを得意とした。又、彼女は当時ミラノ・スカラ座の支配人バルトロメオ・メレッリと昵懇の仲にあり、1839年11月17日ミラノ・スカラ座にて「オベルト」初演の仲介役をし、ヴェルディを助けた。



1842年3月9日ミラノ・スカラ座にて「ナブッコ」初演、アビガイッレ役で大成功する。ヴェルディは彼女用に超絶技巧を駆使してソプラノのパートを書いた。声質は Dramatic・Soprano。また「ナブッコ」初演に向けて配役、日時の調整を支配人B・メレッリに進言、ヴェルディの思惑通りに事を進め、手助けした。1843年秋パルマで公演中、ヴェルディが訪問、将来について会話が進む。その後1846年2月歌手を引退、パリで歌の教師として自